

ちどり保育園くじら組の子どもの絵「わじろひがたのカニ」

### ご案内

## 第22期 和白干潟の自然観察ガイド講習会 「カニの生態を学ぼう！」

和白干潟には全国の干潟では2か所だけといわれる貴重な自然海岸が残っています。砂浜、アシ原、クロマツ林や雑木林、淡水湿地など干潟本来の自然の景観が残っています。干潟の生きものが豊富で、渡り鳥の渡来地になっています。和白干潟を守る会では、博多湾に残された和白干潟の大切さを観察会を通して伝えていきます。和白干潟の観察会で案内するガイドを育成するための講習会を開催しています。自然を体験して学習します。参加をお待ちします。（初心者歓迎）

とき：6月30日（日）受付13:30 開始14:00～17:00

雨天決行 中潮 満潮 7:33 干潮 14:09

集合：和白干潟を守る会事務所

（福岡市東区和白1-14-37 海のきりえ館1階）

講師：古賀 庸憲 氏 和歌山大学教育学部 教授

参加費：300円 募集：20名

持ち物：筆記具、スコップ、ルーペ、飲み物、（あれば）双眼鏡

服装：長靴、帽子、長そで、長ズボン、（雨具）

主催：和白干潟を守る会

問い合わせ：TEL: 090-8412-2663（山之内）



（コメツキガニと砂だんご）

# 2019年度 和白干潟を守る会 総会報告 (高田 将文)

## 主な役員と事務局組織

2月23日に、2019年度の総会を開催しました。参加者は15名。山本代表が「和白干潟を守る会は今年で31年目を迎えます。自然観察会やクリーン作戦など、多くの活動を続けてきました。和白干潟を守る会の活動に対して、「日本自然保護大賞」や「ふくおか地域づくり活動賞」準グランプリを受賞しました。昨年は守る会設立30年で「30周年記念・日本自然保護大賞受賞記念シンポジウム」も開催しました。30年誌「未来につながる和白干潟」を発行しました。30年という節目に多くのことができたことは嬉しいことでした。昨年10月の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、和白干潟は登録されませんでした。今後も和白干潟がぜひ『ラムサール条約登録湿地』となるように希望を持ってがんばりましょう！引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！」と開会挨拶をおこないました。

### 役員

会鳥 ミヤコドリ  
代表 山本 廣子  
事務局  
事務局長 今村 恵美子  
事務局員 山之内 芳晴  
会計 田辺 スミ子  
有江 圭子  
監事 田中 貞子  
松尾 満子

### 主な活動内容

観察会  
クリーン作戦  
干潟まつり  
HP編集・通信  
調査、写真  
記録、会計  
名簿・通信配布管理  
助成金、監査  
保全のつどい  
山・川・海流域連携  
資料点検



## 2019年度活動方針 私たちは、この方針で1年間取り組みます！

1 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」、「学習会」などの企画を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

2 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

3 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

## 2018年度決算と2019年度予算



(単位：万円)

### 2018年度決算

当期収入は233万円で、主な収入は会費32万円、寄付金106万円、助成金等76万円と事業収入が14万円です。当期は企業や個人から寄付金を頂きました。支出は250万円で、主な事業支出は通信・リーフレット発行、観察会、干潟まつりです。収支は17万円の赤字で、次年度への繰越は323万円となりました。

### 2019年度予算

当期収入は233万円を見込み、支出は276万円を計上しました。会費、寄付金など貴重な収入を大事に使っていきます。

	2018年度 決算	2019年度 予算
当期収入	233	233
当期支出	250	276
収支差額	17	43
前期繰越金	340	323
次期繰越金	323	281

# 和白干潟を守る会の活動を紹介します！ (山之内 芳晴)

守る会では様々な活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしています。

## 干潟で自然の大切さを伝える活動（観察会や干潟まつり）

学校や様々な団体の依頼を受けて、和白干潟自然観察会を実施しています。昨年は12回行いました。また、和白小学校では年間計画の中で継続して「和白干潟の自然観察」を行い、3月にはまとめの発表会がありました。このほか、昨年11月には第30回目の「和白干潟まつり」を開催し、晴天に恵まれ約550名の参加がありました。



## 和白干潟のクリーン作戦と自然観察

毎月第4土曜日の午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口までの範囲を中心に企業や学生を含む一般のボランティアと共にゴミを清掃し、清掃後には自然観察も実施します。昨年は毎月定例のクリーン作戦のほか臨時の清掃も加えると年間22回行い、延べ1155人が参加、2330袋のゴミを回収しました。



## 和白干潟周辺の自然の調査

環境省、NPO法人バードリサーチ、JEAN（クリーンアップ全国事務局）などの依頼を受けて、年間を通してシギ・チドリ調査、水鳥調査、ゴミ内容調査に参加しました。（鳥10回、漂着ゴミ1回）



## 和白干潟の水質調査と砂質調査（毎月実施）

下の表は2018年10月から2019年3月までの水質調査と砂質調査結果です。水質調査についてはほぼ例年通りでしたが、水質は改善傾向にあります。砂質調査については、前年度に比べ浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、悪化しています。（表層酸化層が厚いほど砂質が良いこととなります）

水質調査結果（2018年10月～2019年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
リン酸イオン (PO <sub>4</sub> )	mg/l	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	5	5	4	5	4	4
亜硝酸 (NO <sub>2</sub> )	mg/l	0.01	0.005	0.02	0.005	0.01	0.005
透視度	cm	25	40	100	80	80	45

砂質調査結果（2018年10月～2019年3月）

測定項目	単位	10月	11月	12月	1月	2月	3月
10㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	3	4	4	4	10	3
還元層の黒色度	—	14	14	13	14	13	13
150㍍地点 表層酸化層の厚さ	mm	6	15	12	21	31	21
還元層の黒色度	—	13	13	13	13	12	13



## 山・川・海の流域会議

立花山や三日月山を源流として和白干潟にそそぐ唐原川、この集水域全体を保全する目的で2012年7月に発足。立花山から和白干潟までの6団体で構成しています。2か月に1回定例会議を開き、2018年5月には「唐原川お掃除し隊」、2019年1月に新春講演会を開催しました。

## 和白干潟を守る会へのご支援ありがとうございます！

1/25 「あいおいニッセイ同和損保（株）」様より 寄付金をいただきました。

3/20 「（公財）イオン環境財団」様より 助成金をいただきました。



# 和白干潟の自然だより

(山本 廣子)

## ツルナ

ツルナ科。海岸の砂地にはえる多肉性の多年草。茎は高さ40～60cm。枝分かれして地表をはい、上部は斜めに立ちます。葉は三角形に近く、厚くて軟らかく、3～6cmくらいです。小さな黄色い花が葉のわきに1～2個付きます。和白干潟の沿岸では砂洲や砂浜、海の広場の浜辺、雁ノ巣海岸などで見られます。葉は食用になり、お浸しなどで食べます。生のまま噛むとしょっぱい味がします。観察会でも子どもたちに食べてもらいます。畑で栽培されることもあるそうです。花期は4月～11月とされていますが、和白干潟沿岸では2月頃から花が見られます。



ツルナ

## ケフサイソガニ



ケフサイソガニ

モクズガニ科。甲幅22mm(雄)。甲は丸みのある四角形で、暗褐色です。雄のハサミ脚の付け根には毛の房があります。北海道から沖縄までの内湾や河口域の石の下などにすんでいます。和白干潟では牧ノ鼻海岸の岩場で多く、唐原川河口の石の下や、和白川河口の護岸、雁ノ巣海岸の岩場でも見られます。大きな石の下には雄、雌、子どもたちなどが一緒にすんでいることが多く、そろそろと見つかります。大きなものから小さなものまで見られます。雄のハサミは大きく、はさまれると痛いこともあります。

## タシギ

シギ科。全長26cm。和白干潟には冬鳥として訪れています。全国では水田、蓮田、湿地、川岸などに渡来しているようで、田んぼなどの淡水系シギなのでしょう。和白干潟では五丁川河口のカネンテ(河口が曲がって膨れた場所)で今冬1羽が見られました。田んぼが少ない和白干潟沿岸では、とても珍しい鳥です。まっすぐで長い口ばしを泥の中に差し込んで、貝類、甲殻類等を食べています。五丁川河口はゴミが多く、ゴミの周りで食事をするタシギがかわいそうに思えます。ゴミを拾って、きれいな和白干潟に来てほしいですね。



タシギ

## 春の和白干潟のしぜん

早春のアシ原では、ハマツナやホコガタアカザなどの小さな可愛い芽が出てきます。春にはハマダイコン、ツルナ、ハマエンドウ、ハマウド、ハマヒルガオなどの花が咲きます。ハマニンクが穂を付けます。ウグイスが上手に鳴きます。4～5月は潮干狩りの最盛期です。干潟ではコメツキガニ、マメコブシガニ、オサガニ、ミズクラゲ、ウミニナ、アサリ、オキシジミなどが見られます。アシ原付近にはアシハラガニ、クロベンケイガニなどがたくさん出てきます。干潟の生き物たちが活発に動き出す春の干潟は、生命の息吹を感じます。

今年の冬は暖冬で、越冬していたカモたちが早く渡って行きました。代わって旅鳥のオオソリハシシギ、ホウロクシギ、オバシギ、チュウシャクシギ、アオアシシギ、キアシシギ、ソリハシシギ、メダイドリなどが立ち寄ります。夏鳥のコアジサシ、オオヨシキリなどが渡ってきます。クロツラハラサギやミヤコドリは4月中旬頃まで見られます。ミヤコドリは今春は25羽が見られました。

## JAWAN総会とシンポジウム

3月30日～4月1日まで「沖縄県立石垣青少年の家」にて日本湿地ネットワーク(JAWAN)の総会とシンポジウムがありましたので、参加しました。「アンパルの自然を守る会」結成10周年記念行事でもありました。総会では2019年度の役員として私は引き続き運営委員になりました。シンポジウムは33名の参加で、「アンパルの自然と再生計画」「日本の湿地をめぐる現状」など多くが報告されました。ラムサール条約登録湿地となっているにも係わらずアンパルの干潟やマングローブ林の集水域付近では開発計画がなされており、これからも計画されていたりと残念に思いました。環境悪化が食い止められるよう祈らずにはいられませんでした。「各地の報告」で私は和白干潟の自然や保全活動を報告しました。(山本)



## 香椎公民館ふれあいサロンで「和白干潟の今」講演



2月26日、50名の皆さんが熱心に話を聞いてくださり、山本代表の子どもの頃の和白干潟は「和白子ども海水浴場」と呼ばれ、潮干狩りや海水浴に県内各地から多くの人々が訪れていたことを知らなかった人や、ここで泳いだという方もありました。博多湾や和白干潟の歴史、守る会が生まれた経緯、当時の様子などを説明、特に全国でも2か所しかない自然海岸の残る貴重な干潟であることなどを詳しく話しました。30年を超える保全活動で、特に山・川・海の流域会議の活動の意義や、ラムサール条約登録については熱心に説明があり、皆さんも大きく頷いて賛同されていました。是非和白干潟に足を運んで、「和白干潟を守る会」の活動にひとりでも多くの方々の参加をお願いしたいと講演を締めくくりました。(松田)

## 福岡市議選東区立候補予定者に公開アンケート

4月7日に行われた統一地方選挙で、東区から立候補した17名の候補者に「和白干潟のラムサール条約登録についてどう考えるか」をアンケートを送付しましたが、新人3名には送付先がわからず送れませんでした。送付した14名の候補者のうち7名が回答、結果をHPで公開しました。(今村)

## 山・川・海の流域会議の新春講演会開催

1月12日、新春講演会では2団体の活動報告がありました。最初に「楽友会」船越さんによる「楽友会15年の歩み(平成16年～29年)」のお話がありました。次に、「和白干潟を守る会」の和白干潟の自然と環境保全活動について山本さんのお話がありました。「なぜ和白干潟の保全活動を始めたのか」に絞っての話でした。和白子ども海水浴場のそばで育って、東京で絵の勉強をして帰ってきた25歳の時、海の埋め立て計画を知りました。探鳥会でたくさんの種類の鳥たちが来ていることを知って、海を埋めないでほしいと署名を集め、福岡市議会に保全願を提出し、和白干潟は残ることになりました。しかし埋め立てたいという勢力が多く、1988年和白干潟を守る会を設立し和白干潟の自然のすばらしさを伝えようと思いました。設立30年にもなり、ラムサール条約登録を目指して活動していきたいと締めくくりました。(今村)



## 辺野古をめぐる沖縄県県民投票で反対72%!

辺野古の海を埋め立て米軍基地を移設することの是非を問う沖縄県県民投票は、72%が反対の意思を示しました。埋め立て工事は始まりましたが、なお反対の意思表示をした県民の思いの強さを全国に示しました。しかし政府は民意を尊重せず、工事を続行しています。地元新聞社が行った全国各県知事へのアンケートでは、7割超の反対は民意の表れであると受け止め、辺野古埋め立ては、沖縄だけの問題ではなく、全国民が沖縄の負担軽減の方向で考えるべきとの意見が多かったそうです。(今村)

### 気が付いたらあなたも電話してください!

海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分でゴミを拾った時

092-282-7146(港湾空港局維持課)

沖のアオサをとってほしい時

092-282-7153(港湾空港局環境対策課)



弱った野鳥を見つけた時

092-513-5611

福岡県筑紫保健福祉環境事務所(地域環境課)

092-643-3367

福岡県環境部自然環境課野生生物係

\*\* お 願 い !! \*\*

干潟でのゴルフの練習やラジコン・ドローン等を飛ばすことはやめましょう!とても危険です。

干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう!  
(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)

犬のフンの始末は飼い主がしましょう!



## ●2018年12月

- 12/2 (日) 2018年冬期シギ・チドリ調査1回目(今津)  
和白干潟通信129号編集会議
- 12/4 (火) 第3回和白干潟まつり実行委員会  
2018年冬期シギ・チドリ調査1回目(博多湾東部)
- 12/8 (土) バードウォッチングin 和白干潟2018参加
- 12/9 (日) 和白海岸探鳥会
- 12/11 (火) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 12/13 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 12/15 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 12/24 (月) 和白干潟通信129号編集会議

## ●2019年1月

- 1/6 (日) 2018年冬期シギ・チドリ調査2回目(今津)
- 1/11 (金) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 1/12 (土) 山・川・海の流域会議「新春講演会」参加
- 1/13 (日) 和白海岸探鳥会
- 1/15 (火) 和白干潟通信129号発送会
- 1/18 (金) 2018年冬期シギ・チドリ調査2回目(博多湾東部)  
和白海域水鳥調査
- 1/24 (木) 和白小学校5年生の和白干潟観察会
- 1/26 (土) 定例会議  
和白干潟クリーン作戦と自然観察(荒天のため中止)

## ●2019年2月

- 2/3 (日) 2018年冬期シギ・チドリ調査3回目(今津)
- 2/5 (火) 2018年冬期シギ・チドリ調査3回目(博多湾東部)
- 2/10 (日) 和白海岸探鳥会
- 2/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 2/12 (火) 会計監査・役員会
- 2/14 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 2/23 (土) 総会・臨時定例会議  
和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 2/26 (火) 香椎公民館ふれあいサロン 講演「和白干潟の今」



きりえ「早春(ハマダイコンとツクシガモ)」

### ★ご案内★

### くすだひろこ きりえ 展 ・和白干潟のががやき・

日時：5月1日(水)～5月31日(金)

11:30～15:00, 17:30～20:30

会場：レストラン「花もも」(日祝休)

福岡市東区唐原3-7-6

TEL:092-673-0563

和白干潟のきりえ作品を15点飾っています。

★ご高覧をお願いします★

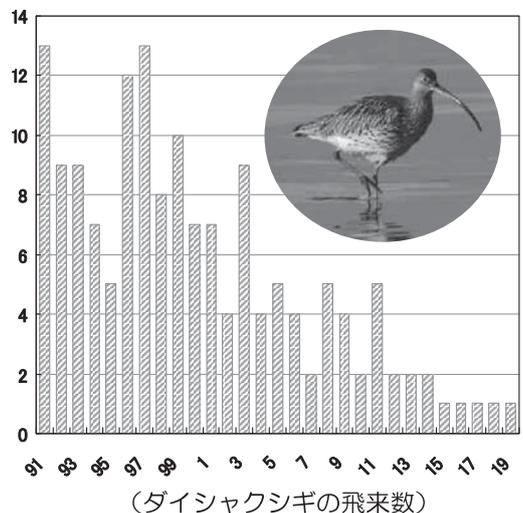


きりえ「木もれ陽(ミヤコドリ)」

## 干潟のつがやき「ダイシャクシギさん、ずっと和白干潟に来てね！」

ダイシャクシギは全長60センチほどのチドリ目シギ科に分類されるシギの中では最大級の鳥です。その名前は大きく下に反ったくちばしに由来しています。和白干潟には冬鳥として飛来し、春になるとシベリアに飛び立ちます。

90年代には毎年10数羽が訪れていましたが、だんだん少なくなっていき、2015年からは毎年1羽しか見られません。北九州の曽根干潟には100羽程のダイシャクシギが来ているそうですが、なぜか仲間もつれずに和白干潟に来るダイシャクシギは、たった一羽で寂しくないのかな。もしこの鳥が亡くなったら和白干潟にダイシャクシギがいなくなると思うと「ダイシャクシギさん、長生きしてね」と祈らずにはいられません。ネットでダイシャクシギの寿命はどのくらいか調べてみましたら、なんと最大30年くらい生きるとのこと。まだしばらくは元気なダイシャクシギさんに会えますね。(山之内)



# 観察会報告（2019年1月～3月）（今村 恵美子）

## 1/24(木)和白小学校5年生112名と先生4名の冬の和白干潟観察会



風がなく暖かい日でした。11月の「和白干潟まつり」で和白干潟について学習した内容をパネルで発表し、和白干潟についてより詳しくなった5年生は慣れた感じで海の広場にやってきました。山本さんから和白干潟の自然海岸の重要性についての話やアシ原の植物についての話を聞いてから、バードウォッチングをしました。ガイド1名に10数人ずつ子どもがついて、グループごとにアシ原の観察に出かけました。みんなでアシ原の迷路を楽しみながら歩きました。ウグイスの「地鳴き」も聞こえました。海に出ると視界が開け、思わず沖の方に行ってしまう子もいました。子どもたちは問題意識を持って熱心にガイドに次々と質問し、メモをとっていました。望遠鏡でミヤコドリを観察した後、ゴミを拾いながら沿岸を歩いて戻りました。最後に代表の子どもが「調べたことをまとめ、4年生の時よりもよく発表できるようにしたいです」と挨拶しました。「また干潟まつりに来ます！」という子がいて頼もしかったです。（有江）

## 3/10(日)藤前干潟を守る会のガタレンジャー6名の和白干潟見学

朝から雨で風も出てきましたが、名古屋の藤前干潟を守る会の方々6名が和白干潟に見学に来られました。アシ原の中道を案内して、砂洲まで行きました。干潟にはミヤコドリ23羽、クロツラヘラサギ9羽などが見られました。今回は観察会を案内するガタレンジャーの研修で、九州の干潟の見学に来たそうです。前日は中津干潟と曾根干潟を、今日は和白干潟と今津干潟を見学するそうです。皆さんは干潟の自然に関心が高く活発でした。このような自然を守る人たちが増えてほしいと思いました。今回来られたガタレンジャーは若い人が多かったです。和白干潟でも自然に関心がある若い人が参加するようになってほしいですね。（山本）



## 3/19(火)和白小学校5年生の1年間の和白干潟観察会まとめの発表会



5年生全員が集まり、実行委員が「2年間学んだことを伝えられるように頑張りましょう」と挨拶してから、各クラスで教室の前後で2グループに分かれて発表が始まりました。「ラムサールパワー」「The 鳥」「アサリーズ」などの発表タイトルがついていました。紙芝居、模造紙、パワーポイントなどを使い、発表の中に寸劇も交えたりして、調べたことをわかりやすく伝える工夫がされ見ごたえがありました。インターネットで調べたり、実際に和白干潟に行っておんなゴミがあるかを集計したりして、努力の跡が見えました。最後に山本さんが「私たちの後に、和白干潟を守る人になってほしいです」と話しました。「ありがとうございました」と挨拶する子どもたちの目はキラキラと輝いていました。『美しい和白干潟を守ろう！ゴミのポイ捨てはやめよう』という子どもたちが作ったポスターをもらって帰ってきました。（有江）

## 3/31(日)石垣島アンパル観察会（JAWANシンポジウムの中で）

石垣現地の親子とJAWAN会員やアンパルの自然を守る会など28名が参加しました。アンパルは名蔵川河口干潟とマングローブ林、湿地草原から成り立っています。外側の名蔵湾の海岸からアンパル干潟やマングローブ林の水路の中まで歩いて観察しました。朝から曇り空で時折小雨も降り、膝まで足が濡れて寒かったのですが、ヤエヤマヒルギやオヒルギ、大きなキバウミナなど石垣ならではの自然を味わいました。アンパルの自然を守る会の方は高校の理科の先生が多く、詳しく解説いただきました。マングローブ林の水路の奥ではマングローブの立ち枯れが起こっている場所も案内されました。素晴らしい自然と問題の現状も見せていただきました。（山本）



### 守る会問い合わせ窓口

ホームページ：<http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>

入会 / 観察会（申込等）	山之内 芳晴	Tel 090-8412-2663
クリーン作戦	田辺 スミ子	Tel 090-1346-0460
広報 / 調査 / 定例会議	山本 廣子	Tel/Fax.092-606-0012
干潟まつり	今村 恵美子	Tel 090-3413-6443



# お知らせコーナー

## 和白干潟のクリーン作戦と自然観察のおさそい

4月27日(土) 15時~17時「干潟・湿地を守る日2019」参加  
「全国春のビーチクリーンアップ2019」参加



6月23日(日) (受付:9時) 9時半~11時半「ラブアースクリーンアップ」参加  
集合: 和白干潟海の広場 (東区和白4丁目海岸) 小雨決行  
問い合わせ: 090-1346-0460 (田辺)

## 初夏の和白干潟観察会(雁ノ巣海岸): 山・川・海の流域会議主催

日時: 6/8(土) 10:00~13:00  
集合: 雁ノ巣リレーションセンター駐車場トイレ前(福岡市東区雁ノ巣)  
参加費: 無料 長靴・帽子持参 問い合わせ: 090-2397-1424 (松田)

## 定例スケジュール

### 定例会議(4/27, 5/25, 6/22)

毎月第4土曜日 10時半~13時 守る会事務所にて開催。

以下は参加自由です! 仲間が待っています!

### クリーン作戦と自然観察

(4/27, 5/25, 6/22)

毎月第4土曜日 15時~17時 和白干潟・海の広場集合  
長靴があると便利。駐車場なし。

### 和白海岸探鳥会(5/12, 6/9, 7/14)

主催: 日本野鳥の会 福岡支部  
毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合  
参加費: 一般300円 野鳥の会会員100円



会員募集中!

年会費 個人 2,000円  
団体 5,000円

カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860  
和白干潟を守る会

ボランティアへのお誘い

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)等です。  
参加をお待ちしています!

## 和白干潟の鳥たち(その86)

### ダイゼン(チドリ目 チドリ科 / Grey Plover) 大膳 [全長29cm]



(写真撮影: 三宅 僚)

ダイゼンは冬鳥として和白干潟に訪れています。「大膳」は昔、天皇の食膳に出されたおいしい鳥という意味だそうです。英名のGrey Plover(灰色のチドリ)は冬羽の特徴をとったものです。2001年には和白干潟で46羽が記録されていますが、近年は6~10羽程が観察されています。ハトくらいの大きさで、目がまん丸で可愛い鳥です。よく並んで立っている様子が見られます。地表をつついてゴカイを引き出して食べます。甲殻類も食べるそうです。ピューイーと澄んだ尻上がりの声で鳴きます。和白干潟では奈多の廃船上でよく休んでいる姿が観察されます。雌雄同色で、夏羽では顔から胸側にかけて黒くなり、頭頂や肩は白くて美しい羽に変わりますが、その時には渡って行くので夏羽を見ることは余りありません。(山本 廣子)

【編集】田辺 スミ子・今村 恵美子・高田 将文・山本 廣子・山之内 芳晴



《カット》「ちどり保育園」の子どもたち・くすだひろこ

次号は2019年7月に発行予定



【編集後記】和白干潟を訪れるシギ・チドリ類は2000年には1500羽を越えていたものが年々減少し、最近では500羽を切ることも多くなりました。減少の原因はどこにあるのか分かりませんが、和白干潟を訪れるミヤコドリが増えているように、シギ・チドリたちもたくさん来る和白干潟であって欲しいですね。(山之内)